

一 般 質 問 通 告 書

令和 7 年 北秋田市議会 3 月定例会

順位	1-1	質問者	2	三浦 倫美 (日本共産党 議員団)	出席を要求する理事者	市 長
質 問 事 項 及 び 要 旨					理 事 者 の 答 弁	
1. オーガニック給食と有機農業産地づくりについて ①オーガニック給食と有機農業産地づくりについて、引き続き、中長期的視野で注視を 1) 展望と課題について。 12 月定例会の一般質問での答弁では、展望と課題も述べられた上で注視していく姿勢が示されました。 私はその答弁を受け、当局の姿勢に希望を感じるとともに、課題の大きさも重く受け止めました。課題と向き合ってきた先進地の取組について一例紹介いたします。 千葉県いすみ市では、 2012 年、有機農業者がゼロだったところから取組み始める。 2013 年、手探りで水稻無農薬栽培に挑戦し失敗。 2014 年、水稻有機栽培の実証事業（3 年間）開始。民間稲作研究所、県普及指導員、J A、市が連携。 2015 年、生産された有機米 4 トンを学校給食に導入。 2017 年、学校給食の全量にあたる 42 トンの有機米を提供。有機 JAS 認証取得開始。産地を形成。学校給食全量有機米へ。有機米にした場合の給食費の差額を市が補てん。 2018 年、学校給食に向けた有機野菜の生産と産地化の取組を開始。給食センターの現体制を変えずに無理なく使用できる品目から優先。 2021 年度は、有機ニンジン、有機コマツナ、有機メークイン、有機タマネギ、有機ニラ、有機ネギ、有機ダイコン、有機キャベツを提供。 有機農産物の学校給食利用とその成果として、 ・ 学校給食における残食の減少 ・ イメージアップと認知度向上 ・ 移住者の増加 ・ 農産物のブランド化 ・ 農業所得の向上 ・ 新規就農希望者の増加 などが示されています。						

当市では、12 月定例会一般質問への答弁にありましたように、「先進地の取組を注視しながら、関係機関と情報共有していく」との姿勢で、引き続き、中長期的視野で展望と課題に目を向けていただきたいと思います。改めて市の考えをお聞きします。

2. 秋田県冬期防災訓練と弾道ミサイルを想定した住民避難訓練について

①秋田県冬期防災訓練と弾道ミサイルを想定した住民避難訓練について

- 1) それぞれの計画と実施の経緯についてご説明ください。
- 2) 国民保護法による弾道ミサイルを想定した住民避難訓練の問題点についての認識は。

住民に協力を強要するものにならないか。国・県・市の関係において市の自主性は確保されるのか。住民に不安をあおり、緊張を高めることにならないか等、自然災害への防災訓練とは違う難しさがあると思いますが、市の考えをお聞かせください。